



# えっ！ホントに壊す!? 東京海上ビルディング

TMBを愛する会編 (建築ジャーナル・2200円)

2023年度の解体着工が予定されている、東京・丸の内、東京海上日動ビル。言わずと知れたモダニズム建築の巨匠、前川国男による高層ビルだ。本書は前川事務所の元所員らが中心になって編さんした。

巨大なガラスタワーが林立する東京駅周辺にあって、赤褐色の打ち込みマイルで覆われたその姿は唯一無二の存在感を誇る。1974年の完成。都市の美観論争も巻き起こした前川の思想がぎっしりと詰まったビルだ。50年を待たずして決まった解体に、建築家や哲学者、市井の人々約80人が論考を寄せた。

建築的価値を強調し、解体反対を唱えるだけの本ではない。建築家、六鹿正治はESG投資が拡大するなか、古くとも価値あるものを守る姿勢は「日本社会をリードする企業のグレス・オナリーシェ(高い地位・身分に伴う責務)」と記した。スクラップ・アンド・ビルドを繰り返す現代社会への鋭い批評も含む。

「TMB」は前川事務所での同ビルと呼称という。60年代に週休2日制を導入し、休み明けには必ず、どんな本を読み啓蒙を聞いたか、前川に尋ねられるといった、元所員ならではのエピソードの数々も。(平)

右で紹介した『えっ！ホントに壊す!? 東京海上ビルディング』より、銅版画の第一人者、中林忠良が描いた東京海上日動ビル。本書には写真や図画、スケッチなども収録されている。

